

## (2) 東北



東北地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す( \_ は上方に変更、\_ は下方に変更)

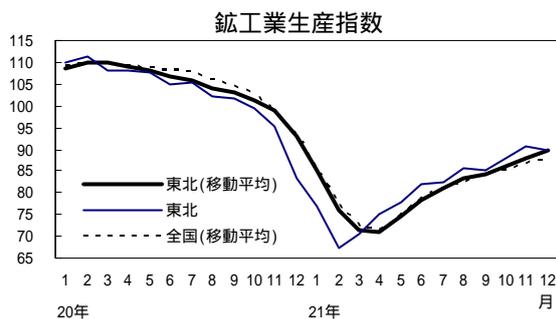
### 前回調査からの主要変更点

なし。

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は持ち直している。

電子部品・デバイスは、モス型半導体集積回路が堅調に推移したことなどから、おおむね横ばいとなっている。食料品・たばこは、横ばいで推移している。一般機械は、半導体製造装置及びプラスチック用金型などで、増加している。情報通信機械は、デスクトップ型パソコン及びノート型パソコンを中心に、増加している。化学は、塩化ビニリデン樹脂及びふっ素樹脂などで、増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

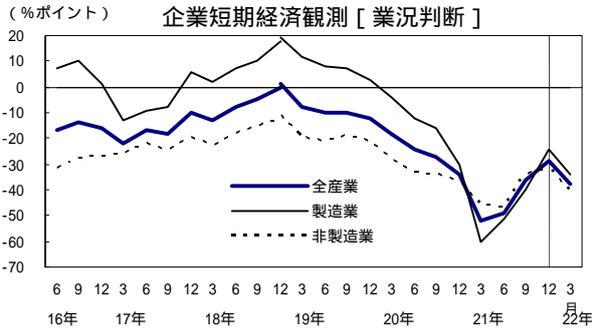
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
電子部品・デバイス	17.9	11.4	0.4	11.2	19.9
食料品・たばこ	11.8	0.9	0.1	1.2	12.4
一般機械	10.1	9.0	27.7	32.0	0.9
情報通信機械	9.6	3.6	5.6	13.7	6.0
化学	7.0	4.1	7.2	8.5	1.3
鉱工業	100.0	7.9	6.0	8.7	5.0

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。  
2. 全国及び東北の太線は後方3か月移動平均。

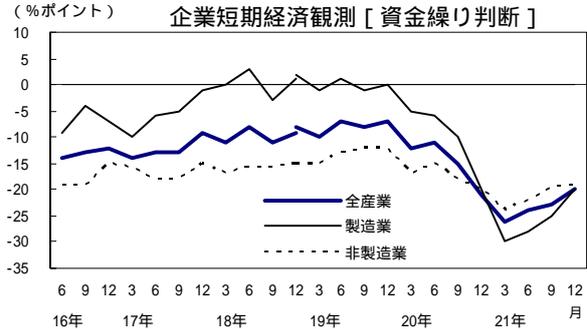
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 10~12月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

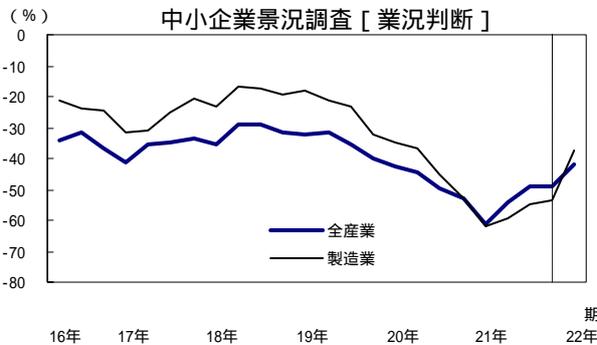
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年3月は予測。  
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(11月)[企業動向関連(現状)]

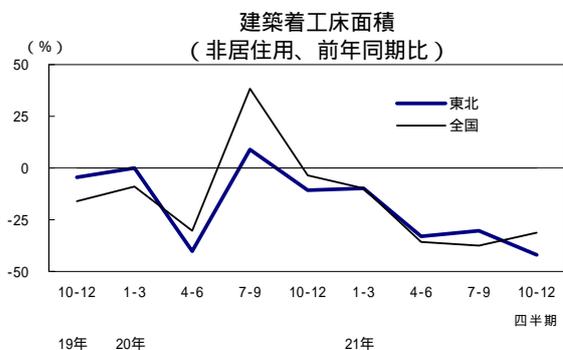
「競合他社の販売攻勢が激しく、得意先との契約条件は一層厳しくなっている(通信業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	20年度実績	21年度計画
全産業	30.1	24.1 ( 2.9)
製造業	39.1	26.0 ( 2.8)
非製造業	1.8	20.1 ( 3.1)

(備考)( )は前回(9月)調査比修正率。



(2) 東北

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

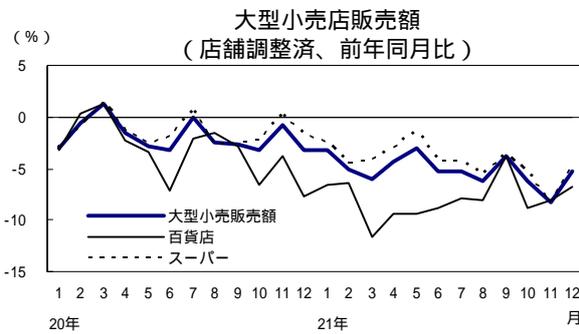
大型小売店販売額

百貨店は、10月は、セールにより家具に動きがみられたものの、海外ブランドなど高額商品が不振で、前年を下回った。11月は、物産展や歳暮ギフトにより加工食品に動きがみられたものの、冬物衣料全般が低調などだったことから、前月よりも前年比の減少幅が拡大した。12月は、飲食料品全体としては振るわなかったものの、クリスマスケーキやおせちの予約が好調だったことから、前年比の減少幅が縮小した。なお、東北百貨店協会によると、東北地区の1月の売上高は前年同月比で6.9%減となっている。

スーパーは、液晶テレビや暖房器具が好調に推移したものの、飲食料品や冬物衣料全般が振るわず、前年を下回った。

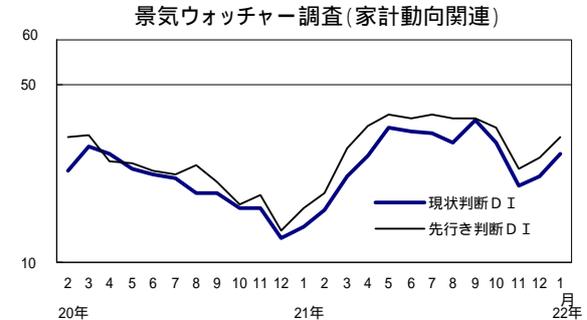
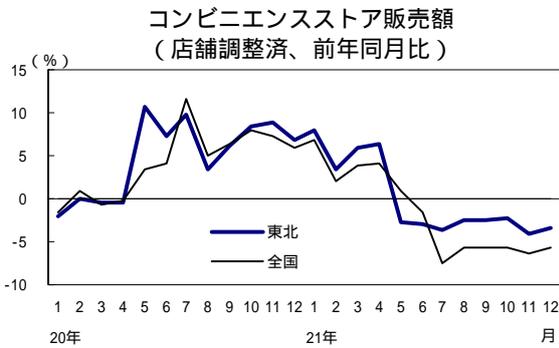
景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「大晦日から降り続いた雪の影響で、初売りの売上は例年を下回るものの、以降は前年の売上を上回る日が増えている。全体的な売上は前年割れとなるものの、マイナス幅の縮小や買上点数が回復するなど、明るい兆しも見えている(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	21年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	4.7	4.2	5.1	6.5
百貨店	8.4	9.2	6.7	7.8
スーパー	3.7	2.9	4.6	6.1
乗用車	20.6	15.3	6.1	18.5
景気ウォッチャー	23.0	37.9	39.3	31.3

- (備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。  
 2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。  
 3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、大幅に減少している。

(3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度を上回っている。

